

## 令和8年度 東京都立第一商業高等学校 学校経営計画

### 1 目指す学校

#### (1) スクール・ミッション

「人間尊重の精神を基調とし、民主的・文化的な国家及び社会の形成者・国際社会の一員として、発展に寄与する産業人を育成する。」を教育目標とし、ビジネスの知識や技能を生かし地域の課題解決に貢献する人材を育成する。

#### (2) 教育目標

本校は人間尊重の精神を基調とし、民主的・文化的な国家および社会の形成者として、また国際社会の一員として、その発展に寄与する産業人を育成することを教育目標とする。

#### (3) スクール・ポリシー

##### ア グラデュエーション・ポリシー

- (ア) ビジネスの課題解決力の根幹となる知識と技能を身に付けた生徒を育成する。
- (イ) 探究的な学びを通じて、自らの足で調べ、自らの頭で考える力を身に付けた生徒を育成する。
- (ウ) ビジネスの知識や技能を生かし地域の課題解決に主体的に取り組む意欲を持った生徒を育成する。

##### イ カリキュラム・ポリシー

- (ア) 本校はかねて地域探究推進校事業の指定を受け研究開発に取り組んだ学校として、今後も教科横断的に探究学習に取り組む教育課程を編成・実施する。
- (イ) 今後も國學院大學研究開発センター渋谷学研究会と連携し、すべての教科で一单元<渋谷>地域に関する学習を継続する。2学年ではビジネスアイデアで、それまでに学んだ知識と商業科目で身に付けた技術を活かして、<渋谷>地域の課題解決に取り組む教育課程を実施する。
- (ウ) 3学年では課題研究で、3年間の学習の成果をまとめ、学習成果発表や論文等の作成に臨ませる。

##### ウ アドミッション・ポリシー

本校は、創立100周年を機に商業科からビジネス科へと生まれ変わり、さらに令和3年度から4か年地域探究推進校の指定を受け、渋谷・代官山地域に根差した教育活動を進めてきた。そのため入学後に意欲的・積極的に学習に取り組み、さらに本校で学んだビジネスの知識や技能を活かし、この地域の課題解決にも貢献する生徒を期待する。

- (ア) 大学への進学や就職（公務員を含む）等を希望し、簿記・情報・英語を中心とした検定資格の取得及び、探究学習等の学習活動に、意欲的・主体的に取り組む生徒
- (イ) 中学校における総合的な学習の時間、部活動、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動等に意欲的・主体的に取り組む、本校入学後も様々な活動に励む意志がある生徒
- (ウ) 挨拶・身だしなみ・言葉遣いなどの基本的なマナーの大切さを理解し、適切に実践するとともに、コミュニケーション能力の向上に主体的に取り組む生徒

## 2 教育目標の達成に向けた方針

### (1) 基本方針

生徒一人ひとりの「好き」（興味・関心・得意）を出発点に、商業教育の専門性と渋谷の地域資源、国際理解の学びを掛け合わせることで、学びへの内発的動機を高め、自己肯定感と挑戦する力を育てる。加えて、多様な背景や学びのニーズを踏まえ、誰一人取り残さずに学びを保障し、すべての生徒が将来への希望をもって自ら伸びることができる学びの環境を整える。結果として、生徒が自ら進路を切り拓き、社会で学び続ける力（可能性）を最大限に伸ばす。

ア 生徒の個性・能力に応じたきめ細やかな学習指導と親身な進路指導を通して、生徒の自己実現を支援し、進学にも就職にも対応できる学校を目指す。

イ 簿記会計分野の学習を中心とした専門教育の徹底を図るとともに、英語力やプレゼンテーション力を身に付け、国際化・情報化時代の社会に貢献できる人材の育成を目指す。

ウ 調和のとれた人間を育成するため、部活動や奉仕活動を奨励するとともに地域との連携を推進し、規範意識やバランス感覚を兼ね備えた社会から信頼される人材の育成を目指す。

### (2) 創立時からの理念の継続

創立時の本校の理念である「広い国際的視野に立って、世界の随所に自己の運命を開拓する、品性高潔なる商業人であれ」を教育活動の根幹として継承しつつ、社会の変化を踏まえ、探究的な学びや地域連携、デジタル化・国際化に対応した学びをとおして、これからの社会で自ら課題を見いだし解決に挑む人材の育成へと発展させる。

### (3) スローガン

「国際都市シブヤの街で、『好き』を追求し、可能性をひらきます」

本校教職員の使命であると同時に、生徒自身が目標とする姿を示したスローガンとする。

ア 生徒が自分の「得意」や「好き」を深め、やりがいや生きがいへつなげられるよう支援する。あわせて、本校教職員が生徒の無限の可能性を信じ、その可能性を伸ばすとともに、持続的に拓くことができるように伴走する。

イ 国際都市である東京・渋谷の地域と連携し、学び続ける人に求められる問題解決力を身に付け、社会に貢献できる資質・能力を育む。

ウ 教科横断型の探究学習「渋谷学」を一層充実させ、「シブヤ学（仮）」へと発展・進化させる。

### (4) 方策

学習指導、進路指導、生活指導、特別活動・部活動等のそれぞれの教育活動をとおして、生徒の「好き」（興味・関心・得意）を見つける機会を保障するとともに、次の生徒像を目指し取り組む。

- ・資格取得や探究活動等をとおして、目標に向かって粘り強く取り組む生徒
- ・多様性を尊重し、国内外の人々と協働できるコミュニケーション力をもつ生徒
- ・礼儀・規範意識を身に付け、社会の一員として自律的に行動できる生徒

また、全教職員のより良い人間関係を前提とし、協働体制の構築や業務改善を図り、効率的かつ効果的な組織運営や働き方改革等をとおして、全教職員がモチベーションを高めながら、それぞれの資質・能力の更なる向上につなげる。

そして、生徒、保護者、全教職員における本校の教育活動に対する満足度を更に高めるとともに、本校の魅力向上を一層推進し、「入学したい」「入学させたい」「連携したい」と思ってもらえる都立学校とする。

ア 生徒の自己理解（興味・強み・価値観）を促すガイダンス、キャリア教育、体験的学習を実施する。

イ 選択と挑戦の学びの設計を実施する。

各種資格の取得、探究学習（渋谷学）、国際交流、実務的課題（企画・提案等）を複線化し、生徒が自分に合う挑戦を選べるようにする。

ウ 成果の可視化と承認を実施する。

ルーブリック、ポートフォリオ、発表会等により学びの過程と成果を見える化し、挑戦を評価・称賛する文化をつくる。

エ 個別最適な伴走支援を実施する。

面談（学習・進路等）を計画的に実施し、学習に係るつまづきや不安、困難等を早期に把握して支援につなげる。

オ 学びを社会と接続する。

商業教育の学び（簿記・会計、マーケティング、情報、ビジネスマナー等）を土台に、地域・企業・大学・大使館等との連携を拡充し、フィールドワーク→分析→提案→実践→発信の循環をとおして、生徒一人ひとりの「好き」が社会課題解決や価値創造につながる実感を育てる。

カ 安心して挑戦できる環境を整備する。

生活指導と教育相談を両立し、規範意識の育成と居場所づくりを通して、挑戦を支える学習環境を整える。

キ 全教職員による協働体制の構築

各プロジェクトチームやそれぞれの委員会・分掌・教科及び、経営企画室等において課題を把握するとともに、企画調整会議等をとおして、全教職員による情報共有、決定事項の周知、タスク化等を明確し、円滑に業務を遂行する。

## (5) 重点項目と具体的方策等

ア 各資格取得、授業改善、学習評価の充実により、学力と専門性の質保証を図る。

### (ア) 現状例

日商簿記2級取得等が可能なカリキュラムを設置しており、大学進学後に公認会計士に合格するなどの実績や成果がある。

### (イ) 主な取組例

- ・各資格取得の年間計画と到達度基準の共有
- ・家庭学習や放課後及び長期休業中等の講習の体系化（対象者別：基礎・標準・発展）
- ・小テストや模試、振り返り等による学習サイクルの定着
- ・「渋谷学」等の教科横断（商業×英語×情報×各教科）での実務的課題設定
- ・AI時代や次世代を見据えた商業科目「総合実践」等の教育内容の改善
- ・財務諸表の分析力等を生かした探究学習の課題設定

### (ウ) 評価方法

合格者数・合格率、学習到達度データ、授業観察、学校評価アンケート、指導記録学習

イ 「渋谷学」を核に、地域・企業・大学等と連携した探究・実践学習を体系化し、成果を発信する。

(ア) 現状例

自治体や企業及び大学等との連携、渋谷でのフィールドワーク等をとおして、地域のビジネスモデルを学ぶ取組を実施している。

(イ) 主な取組例

- ・「渋谷学」等のカリキュラムマップの整備（学年別到達目標・評価規準）
- ・連携先（企業・自治体・大学等）との協働テーマの開拓
- ・探究成果の発表会やポスターセッションの実施と公開
- ・株式投資や国際金融、商品開発、インターンシップ等の実践活動への発展

(ウ) 評価方法

ルーブリック評価、発表・成果物の質、連携先からのフィードバック、生徒アンケート

ウ 近隣の大使館等との交流機会を生かし、国際理解教育・英語活用の実践を推進する。

(ア) 現状例

近隣大使館との交流・訪問、英語を活用した街頭インタビュー等の実践があり、旧国際会計科の蓄積を活かしている。

(イ) 主な取組例

- ・大使館、国際機関、大学等との交流プログラムの計画化
- ・英語コミュニケーション活動の授業内位置付け（発表・インタビュー等）
- ・海外研修、留学制度の検討

(ウ) 評価方法

参加実績、活動記録、英語運用のルーブリック、アンケート、外部評価

エ 大学進学と就職の双方に対応したキャリア教育を充実させ、生徒一人ひとりの進路実現を支援する。

(ア) 現状例

学校推薦型選抜（指定校推薦）や総合型選抜、取得資格を活かした推薦入試の充実に加え、優良企業からの求人が豊富であり進路実現の幅が広い。

(イ) 主な取組例

- ・キャリア教育（職業理解・学部学科理解・資格と進路の接続）の体系化の改善
- ・総合型選抜や公募型選抜の早期情報提供と志望理由書指導等の組織的かつ効果的な取組
- ・就職に係る企業研究、面接及びマナー指導、求人企業の開拓（OBやOG、企業連携）
- ・資格取得と進路、探究活動と進路の個別最適化（到達状況に応じた受験設計）

(ウ) 評価方法

進路実績、面談記録、進路希望調査、外部模試や適性検査結果、企業・大学からのフィードバック

オ 生活指導と教育相談を両立し、心身の健康と安全を確保するとともに、教育のインクルージョンの視点で支援を充実し、安心して学べる環境を整える。

(ア) 現状例

素直で落ち着いた生徒が多く、身だしなみや礼儀作法の指導が徹底され、教職員が親身に寄り添う姿

勢がある。

(イ) 主な取組例

- ・社会人基礎力（挨拶、時間管理、服装、SNSリテラシー等）の系統的指導
- ・教育相談体制の充実（SC、SSW等との連携、早期発見・早期支援）
- ・いじめや不登校の未然防止、特別な配慮を要する生徒への支援の推進
- ・保護者や関係機関との連携（情報共有、ケース会議）

(ウ) 評価方法

生活記録、出欠データ、相談件数や対応記録、学校評価アンケート、外部機関との連携記録

カ 教職員の協働と人材育成を図るとともに、業務改善を進め、働き方改革とICT活用を両輪に、組織として継続的に学校力を高める。

(ア) 現状例

地域連携や資格取得指導など多面的な教育活動がある一方、取組の属人化や業務負担増が起り得る。

(イ) 主な取組例

- ・年間行事や分掌業務の棚卸しと標準化（引継ぎ資料整備）
- ・ICT活用による業務効率化（連絡、集計、資料共有）
- ・校内OJT、研究授業による授業改善と指導力向上
- ・安全衛生委員会等と連携した働き方改革の推進

(ウ) 評価方法

業務量調査、会議記録、研修記録、教職員アンケート、自己評価